

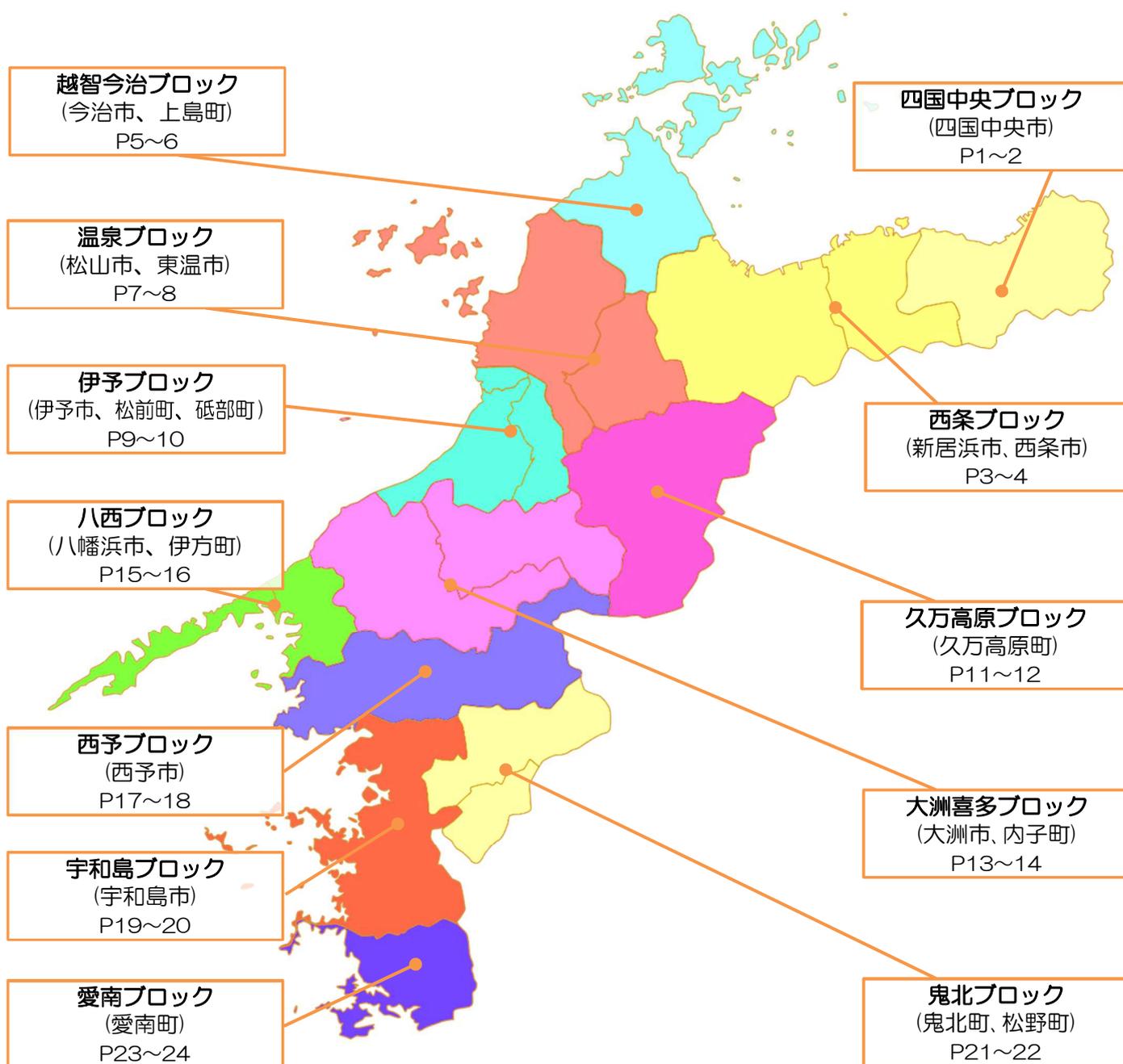
えひめ農林水産業 振興プラン 2021

農業編別冊 各地域ブロックの取組



令和3年3月
愛媛県

- 本県は、東西に長く、北側は瀬戸内海に面した平野が広がり、南側は石鎚山に代表される急峻な四国山地がそびえています。県内の各地域では、それぞれの地形や気候等の特徴を活かして、地域の実情に応じた農業振興及び農村活性化に取り組んでいます。
- ここでは、県内全域を 12 に区分した地域ブロックごとに、今後 5 年間の主な取組（目指すべき方向性）をお示しします。
- 新たな産地づくりや既存産地の再編強化を強力に推進するため、今後、地域の核となり地域を支える品目について、出口となる流通・販売を的確に見据え取り組む活動を「産地づくり」、また、担い手対策、生産基盤対策、鳥獣被害対策など地域農業を活性化させるために重要となる取組について、各地域の産地づくりのベースとなる活動を「地域づくり」として整理しました。



(1) 四国中央ブロック (四国中央市)

～地域の紹介～

四国中央ブロック(四国中央市)は、愛媛県の東端部、四国のほぼ中央に位置し、東は香川県、南東は徳島県、さらに南は四国山地を境に高知県と、四国4県が接している地域です。

同市は東西に約25kmの海岸線が伸び、東部では日本屈指の生産量を誇る製紙・紙加工業の企業群が、西部では干拓地や基盤整備された水田が広がり、工業と農業が共存する都市近郊地帯を形成しています。

気候は平均気温16.2℃、年間降水量1,323mmと温暖少雨な瀬戸内気候ですが、日本三大局地風の一つ「やまじ風」の常習地域となっています。

法皇山脈の北部、嶺北地域の水田地帯では、中国四国地域で生産量1位の「さといも」をはじめ、「やまのいも」「水稻」「かんきつ」「赤石五葉松」の生産、「採卵鶏」、「豚」の飼養が盛んです。

また、嶺南地域では、冷涼な気候を活かし、山間傾斜地の畑で、「茶」や「シキミ」等花木の生産が盛んで、県下有数の産地が形成されています。



関川流域に広がる水田

～産地づくり～

「さといも」「やまのいも」「茶」の産地が形成されています。しかし、高齢化や担い手不足により産地の維持・拡大が難しくなっているため、省力化を図り、高品質安定生産と出口を見据えた産地づくりを目指します。

～推進品目や産地づくりの方向～

○「さといも」の生産・品質の安定化による産地強化

重要病害である「疫病」対策、土壌病害虫(センチュウ、乾腐病、軟腐病)の抑制など、地域が一体となった取組を推進します。また、収穫調製作業の軽減や作業受託組織の運営強化等による担い手の規模拡大を進めるとともに、地域の生産量の約50%のシェアを占める、系統外の青果業者間における連携を促進し、品質の統一を進め、県下トップの産地としての生産量や品質の安定化を目指します。



さといも疫病防除体系モデル



「やまじ丸」栽培風景



一番茶手摘み風景

○「やまのいも」の省力高品質多収技術とブランド化による産地拡大

高収益生産モデル園の設置により産地全体の底上げを図ります。また、県育成品種「やまじ丸」の「愛」あるブランド産品「やまじ丸」について、贈答用中玉芋生産、販路拡大、加工品開発等新たな事業展開を図り、有利販売を進めることで産地拡大を目指します。

○「うま茶」の産地活力向上による産地の振興

新宮、富郷等四国中央市産茶「うま茶」の生産振興体制の整備を進めるとともに、優良茶園と労働力の確保や新たな茶の需要と販路拡大に取り組み、産地の振興と地域活力の向上を目指します。

～地域づくり～

地域農業を維持・発展させるため、四国中央市農業振興センター(四国中央市、JAうま、四国中央農業指導班等で構成)では、青年農業者をはじめ、認定農業者や女性、農業参入企業等多様な担い手を確保します。また、就農後も支援を継続することで、地域を支える農業者を育成し、鳥獣被害対策の強化や地産地消の推進等による地域づくりを進めます。

～推進対象や地域づくりの方向～

○地域農業を支える担い手の確保・育成

農地所有適格法人(株)JAファームうまや地域の担い手との連携を図るとともに、リーダーの育成による集落の活性化を目指します。

また、チームで若手農業者を育成し、戦略作物（さといも等）の作付拡大や集落での話し合いにより農地利用の円滑化を進めます。

○鳥獣被害に強い集落づくりによる生産基盤の維持

市内全域で農産物に対する鳥獣被害の実情を把握するとともに被害対策への意識啓発を進めます。また、鳥獣被害対策を地域ぐるみで推進するためのスペシャリストを育成し、ICT等を活用した新技術等を導入し効果的な捕獲技術の普及を目指します。

○地産地消の推進

『「食育」に根ざした「地産地消」を推進する都市宣言』（平成17年12月）に基づき、市内全ての小中学校の学校給食米は、全て地元産でエコえひめ農産物認証を受けた「うまそだち」です。一般にもこのブランド名で販売しており、地元野菜や果物とともに安定供給を図り、地域内におけるつながりを高めていきます。



天満上集落活性化検討会



地獄檻の設置状況



「うまそだち」の田植え

～水田のほ場整備を推進して農地集積を図ります～

関川北部地域に広がるほ場整備された水田では、「水稻」に地域特産物である「さといも」を組み合わせた営農が展開されています。

土居町小林地区及び関川下流地域等の水田地帯においても、農地の大区画化や汎用化など、営農の省力化や高収益作物への転換につながるほ場整備等を推進し、生産性の向上や担い手への農地集積を図ります。



ほ場整備水田での田植え

～地域の特性と時代の変化に柔軟に対応し、畜産基盤の承継を図ります～

○地域畜産ブランドの販売力強化

加工品の製造や農家レストラン等の多角化に取り組む畜産経営に対し、設備の導入やeコマースの運営等を支援します。

また、安全・安心な畜産物生産のために最新の生産・衛生設備を備えた畜舎への更新等について支援を行い、経営の安定化と畜産基盤の継承を図るとともに、畜産農家の顔が見える仕組みづくりを進め、地域の畜産物の消費拡大に努めます。



養豚場直営の総菜店



四国中央市
マスコットキャラクター
「しこちゅ～」

四国中央市利用許諾第2-17号

さといも「伊予美人」

県育成品種「愛媛農試V2号（伊予美人）」は、多収で大きく、色白で、しっとりとした食感と優しい甘さが特徴。

9月の中旬から収穫が始まり、和食・洋食にはかかせない食材として人気者です。



やまのいも「やまじ丸」

四国中央市産の県育成品種「やまじ王」を「愛」あるブランド産品「やまじ丸」という名称で売出中。外見からは想像のつかない白い肌と粘り強さが特徴。

11月中旬から収穫が開始。



(2) 西条ブロック（新居浜市、西条市）

～地域の紹介～

西条ブロック（新居浜市、西条市）の道前平野や燧灘の干拓地^{ひうちなだ}では、「水稻」、「はだか麦」、「大豆」、「飼料」等の土地利用型作物と、「きゅうり」、「いちご」、「アスパラガス」、「ほうれんそう」、「さといも」、「たまねぎ」、「ブロッコリー」、「メロン」等の野菜や、「ばら」、「デルフィニウム」等の花きを組み合わせた複合経営が盛んです。

また、石鎚・高縄山系麓の中山間地やそれに続く扇状地では、「かき」、「キウイフルーツ」等の果樹や、養豚、酪農、養鶏等の畜産など、立地条件に応じた多種・多様な農業が営まれています。

生産量日本一の「はだか麦」やスプレー咲きの「ばら」、全国トップクラスのブランド力を誇る「春の七草」、県内唯一ブランド化されている「アスパラガス」、伝統野菜の「七福芋」、全国に先駆けて産地化を進めている、かき「太天」^{たいてん}など自慢の農産物があります。



日本一の「はだか麦」の収穫

～産地づくり～

農地・水の保全と水田農業の推進に努めるとともに、消費者に求められる野菜・花きの生産振興及び落葉果樹を核とした果樹産地の復活を目指します。また、流通・販売を見据えて、安全・安心な農産物が安定供給できる農業を推進します。

～推進品目や産地づくりの方向～

○農地・水の保全と水田農業の推進

道前平野の燧灘の干拓地では、農地集積と輪作体系を軸とした「水稻」や「はだか麦」の大規模な経営や集落営農等における転作「大豆」の生産を振興します。特に県育成の水稻良食味品種「ひめの凜」の生産拡大により、水田農業を維持・発展させます。

○流通販売を見据えた、野菜・花き産地の強化

「いちご」等の施設野菜では、高収益生産者の育成や関係機関との連携で県オリジナル品種の販売促進を図り、産地のブランド化を目指します。「さといも」等の露地野菜では、機械化を推進し栽培管理の省力化を図るとともに、加工・業務用野菜の分野では、実需者ニーズに的確に対応した品質・規格生産に努めます。また、伝統野菜の西条の「絹かわなす」や新居浜市大島の「七福芋（白いも）」の産地の維持拡大を目指します。

生産量が日本一のスプレー咲きの「ばら」、県内一の「デルフィニウム」は、ニーズに応じた品種の選定と生産技術の向上を図り、産地の維持、発展に努めます。併せて、高収益、省力化を図れる軽量作物である新花材「ピットスポラム」等の花木を推進します。

○落葉果樹を核にした産地の復活

周桑地区は、「かき」、「キウイフルーツ」栽培が盛んな地域です。「かき」は、既存の品種の価格の伸び悩んでいるため、大果で食味が優れ評価の高い「太天」の産地化・ブランド化に取り組みます。また、「キウイフルーツ」は、病害による樹体への被害で生産量が減少していることから、かいよう病に強い品種（「ハイワード」、「サンゴールド」）の面積拡大を図り、生産量の回復、高品質果実生産に取り組みます。「かんきつ」は、県オリジナル品種を中心に面積拡大を図ります。



「ひめの凜」



新花材「ピットスポラム」



「サンゴールド」

～地域づくり～

重点課題として、①地域農業を支える担い手の確保・育成、②地域を元気にし、農業を支える仕組みづくり、③地域資源を活用した農業再生、の3項目を推進します。そのために、農福連携、鳥獣被害対策、6次産業化、荒廃農地対策等を総合的に組み合わせた地域づくりにも取り組みます。

～推進対象や地域づくりの方向～

○地域農業を支える担い手の確保・育成

農業プロ（農業指導士や認定農業者理事等）と青年農業者・新規担い手との相互交流を図り、新規就農者の確保・定着の仕組みづくりと、担い手育成による地域農業の活性化を進めます。

○地域を元気にし、農業を支える仕組みづくり

国営ほ場整備を実施している道前平野地区等において、既存の集落営農組織の再編等次世代へのスムーズな事業継承ができるよう、オペレーターやリーダーの確保・育成とともに、大型の農業機械の利用拡大や収益性の高い作物の導入、農地集積の推進、鳥獣被害対策、農福連携による新たな雇用の創出等を支援し、集落の荒廃農地の解消と経営基盤の強化を進めます。

○地域資源を活用した農業再生

農業者の高齢化や都市化により、農業従事者数の減少、荒廃農地や鳥獣被害の増加等で地域農業を維持・拡大することが喫緊の課題であることから、地域で核となる農産物の生産とそれを活用した6次産業化により、直売所出荷を見据えた少量多品目生産による農地活用を進めるとともに、市街地周辺部の農村機能を維持する都市型農業の発展を図ります。



農業プロとの交流会



集落営農を考える



農福連携による「さといも」収穫

～水田ほ場整備を推進して農地集積を図ります～

県内に広がる水田面積の約 1/4 を占める県下有数の穀倉地帯であるものの、農業従事者の高齢化や担い手不足などが課題となっているため、ほ場整備を実施し、省力化を図り、担い手への農地集積を進めながら、効率的で生産性の高い水田農業の確立を目指します。

また、ほ場整備と併せて排水対策を行い、水田の乾田化を図ることにより、高収益作物と「水稻」を組み合わせた営農を推進し、儲かる農業の実現を後押しします。



ほ場整備が進む道前平野

～地域の特性と時代の変化に柔軟に対応し畜産基盤の継承を図ります～

○次世代の担い手への経営継承支援

後継者や新規就農者にとって魅力ある畜産経営の実現に向けて、最新の生産設備、衛生設備を備えた畜舎への更新、労働負担の軽減や省力化に資する機械等の導入を促進します。また、家畜伝染病が発生すると地域の畜産経営及び関連産業に多大な影響が出るため、発生予防技術の指導と発生時にまん延を防止するための体制づくりを進めます。



大型収穫機械による省力化



「アスパラガス」

周桑地区で土づくりにこだわって栽培されており、「**緑のさやき(特選)**」と言う商標で「愛」あるブランド商品にも認定されています。新規の生産者が増えているよ。



甘くて美味しい自慢のブランド産品



かき「太天」

周桑地区で産地化に取り組んでおり、1個が600g以上にもなる日本最大級の渋柿。JAで渋抜きをしてから出荷されます。「**福嘉来(ふくがき)**」と言う商標でブランド化を図っているよ。

(3) 越智今治ブロック（今治市、上島町）

～地域の紹介～

越智今治ブロック（今治市、上島町）は、県の東予西部に位置し、高縄山系に連なる中山間地域から平野を挟み、来島海峡の島しょ部にかけて広がっており、その気候風土を活かした多彩な農作物による産地を形成しています。

なかでも、島しょ部から沿岸地域にかけては、かんきつ類の生産が盛んで、「はれひめ」をはじめ、「愛媛果試第28号（紅まどonna）」、「甘平」や「レモン」の栽培が盛んであり、県下有数のかんきつ産地を形成しています。また、「キウイフルーツ」の産地でもある上に、新たな品目として「オリーブ」や「醸造用ぶどう」の産地化にも挑戦しています。

野菜では、「きゅうり」と「さといも」の産地強化や「甘長とうがらし」の生産拡大を推進するなど、魅力ある産地づくりに取り組んでいます。

花木では、「ピブルナム・ティナス」「ピットスポラム」等の国内有数の産地です。



「はれひめ」のマルドリ栽培

～産地づくり～

西日本豪雨災害からの復興とさらなる発展のため、かんきつ類などの果樹のブランド産地を目指し、県オリジナル品種や既存の主力品種を最大限に活かせる栽培技術の確立を強力に推進するとともに、生産技術の高位平準化にも取り組みます。また、県オリジナル品種等の導入が進む野菜・花き、新たに産地化が期待されている「オリーブ」や「醸造用ぶどう」など、生産者の所得確保・向上につながる品種・品目の推進により、地域の特色を活かした産地振興に取り組めます。

～推進品目や産地づくりの方向～

○マルドリ栽培によるブランド果実生産とかんきつ産地の振興

「はれひめ」、「愛媛果試第28号（紅まどonna）」、「甘平」の高品質果実の連年安定生産のために、地域にあったマルドリ栽培等の技術確立を行い、施設化と合わせて栽培技術の普及を図り、「瀬戸の晴れ姫（はれひめ）」・「紅まどonna（愛媛果試第28号）」、「愛媛 Queen（クィーン）スプラッシュ（甘平）」の出荷量拡大を目指します。

○しまなみ産「レモン」の周年供給によるブランドカアップ

「国産レモン」は、夏季（7～9月）の出荷量が少ないため、「夏季レモン」の栽培技術確立し、周年出荷に取り組むことでレモン産地としてブランドカアップを図り、農家所得の向上と地域農業の活性化を目指します。

○地産地消の推進に向けたエコ栽培農作物や花きの栽培カアップ

さらなる地元農産物の消費拡大のため、エコえひめ認証農産物の安定供給と地元での新たな商材（加工品含む）による生産支援と消費拡大に取り組めます。

○地域振興野菜・花きの生産推進による農家所得の向上と産地振興

「愛媛農試V2号（伊予美人）」の省力栽培拡大による水田の有効利用と「甘長とうがらし」の生産拡大、花木等の高品質安定生産技術の向上に取り組む、生産・販路拡大によりさらなる産地振興を目指します。

○「オリーブ」と「醸造用ぶどう」の新たな産地の育成

島しょ部の気候に合った「オリーブ」と「醸造用ぶどう」の産地化のために栽培技術の確立と6次産業化に取り組めます。



「レモン」のブランド化



「さといも」の産地づくり



「オリーブ」の産地づくり

～地域づくり～

農業・農村を支える多様な担い手を確保・育成するため、新規就農者や農業参入企業等に対し、関係機関が連携して研修制度や受入体制の充実・強化に取り組めます。また、グリーン・ツーリズムによる起業活動等を支援するとともに、女性の農業経営への参画を促進し、女性農業指導士とともに優れた女性経営者を育成します。さらに、集落ぐるみで取り組む鳥獣被害対策など、地域を取り巻く課題に対応した支援を強力に展開します。

～推進対象や地域づくりの方向～

○意欲ある就農者のスキルアップによる担い手育成

関係機関と連携し、農業の魅力発信に努め、新規就農者の掘り起しや、就農候補者の円滑な就農支援、営農定着を重点的に支援します。また、地域リーダーと優れた女性経営者の育成に努めます。

○水田を活用したスマート農業の実現

高品質良食味米生産やICTを利用した作業の効率化と野菜等の導入による水田の高度利用で担い手が育つ経営を目指します。

○地域に根差した滞在型グリーン・ツーリズムの推進

地域の特徴を生かした魅力ある体験交流と体験民泊受入家庭の掘り起しや教育旅行の支援、外国人旅行者の受入拡大を目指します。

○実践集団の育成と捕獲技術の向上による鳥獣被害対策の支援

地域住民が主体となった鳥獣被害対策の定着・拡大を図り、安心して農業生産を行える環境づくりを支援します。



新規就農支援



台湾との体験交流



鳥獣被害対策研修

～農業・農村の整備～

○生産基盤の維持・強化

優良農地や農道、水路等の農業用施設の適正な保全に取り組むとともに、地域における新たな担い手の確保・定着につながる樹園地整備や、限られた用水を有効に活用できるかんきつ園での点滴かんがい方式の整備等にも取り組みます。

○安全・安心に暮らせる農村の整備

地域の貴重な水源であるため池については、計画的な改修やハザードマップの作成などにより、防災・減災力の向上を図り、農業用水の安定供給と安全・安心に暮らせる農村の整備に努めます。

○農業・農村の多面的機能の維持発揮活動の支援

多面的機能支払制度や中山間地域等直接支払制度を活用して地域ぐるみで行う共同活動を支援し、農村の多面的機能の増進を図ります。



ため池維持管理活動



共同活動（水路の泥上げ）

～地域の特性と時代の変化に柔軟に対応し畜産基盤の継承を図ります～

○次世代の担い手への経営継承支援

労働負担の軽減や省力化に資する機械や最新の生産・衛生設備を備えた畜舎の導入について、各種事業や資金を活用した支援を行い、後継者や新規就農者にとって魅力ある畜産経営の実現、普及を目指します。

○地域畜産ブランドの販売力強化

豚肉や鶏卵等を活用した地域の6次産業化製品の加工・販売施設等の整備を支援します。また、県開発ブランドの「媛っこ地鶏」や「愛媛あかね和牛」の生産体制強化のため、生産・衛生技術の指導や設備の導入等を支援します。

○家畜伝染病発生予防のための技術指導等

消毒や野生鳥獣の侵入防止等の飼養衛生管理の技術指導を徹底し、家畜伝染病の発生予防に努め、畜産物の安定供給に資するとともに、管内に立地する岡山理科大学獣医学部との連携を進め、最新技術の活用等による安全・安心な畜産物の生産の維持・拡大に努めます。



県内最大規模の養豚場



「愛媛あかね和牛」

～地域農業を支える地産地消活動～

エコ栽培の積極的な推進や学校給食への地元農産物供給をはじめ県下を代表する地産地消の取組を実施しています。新たな地産地消の展開により、新型コロナウイルスにも負けない地域農業をつくっていきます。

また、産直市を核に、一般消費者用の「小麦」の需要開拓にも取り組み、「小麦」の栽培面積の維持・拡大に努めます。

